

自分の命は自分で守る



避難訓練（水害想定）を実施

昭和47年7月16日 読売新聞より



校報
ふたついの



避難後は、担当の小
河先生から水害の恐ろ
しさについてのお話が
あり、「もしも」のと
きに備えてどのような
行動をとるべきか、考
える時間となりました。

二ツ井は、昔から水
害に苦しめられてきた
地域です。昭和47年7
月9日には、上の写真
にあるように、大きな
被害を受けています。
この夏休み中も、米
代川やその周辺の川の
水位が上昇し、避難指
示が出された地区があ
りました。
そこで、防災の日で
ある9月1日（木）、
水害を想定した避難訓
練を行いました。体育
館への一次避難、その
後、水位が上がって危
険な状態になったこと
を想定して、校舎二階
への二次避難を行いま
した。

二ツ井は、昔から水
害に苦しめられてきた
地域です。昭和47年7
月9日には、上の写真
にあるように、大きな
被害を受けています。
この夏休み中も、米
代川やその周辺の川の
水位が上昇し、避難指
示が出された地区があ
りました。

◇みんな仲良し 夢ある子ども
ふさふさと天好き、ふれ合いまえま
たのしく学び、考えま
つよい心で、やさしい子
いつもすこやかに、元気な子

発行責任者
二ツ井小学校
校長 安部芳幸

昭和47年7月9日
水害（田口伍郎氏寄贈）

旧二ツ井小学校の向かい側
の家には、米代川から氾濫し
た水が流れ込み、大きな波を
立てているのが分かります。



旧二ツ井小学校前の道路。
道路より低い位置にある学校
は、一階が完全に水に浸かっ
ています。



片づけの様子です。



体育館の床は、川から流れ
込んだ泥がたまっています。



流れ込んだ川の水により、
教室の中はめちゃくちゃになっ
ています。



車も水に浸かっています。
エンジン内に水が入ると、車
は動かなくなります。

商店街の様子。この状況で
は、お店の中の商品も水に浸
かってしまったことでしょう。



救助用のボートも出動。
ご家庭でも、「もし
も」のときにごう行動
すればよいのかという
ことを確認していただ
ければと思います。



雨と水害

調べたきっかけ 5年1組 鈴木琳

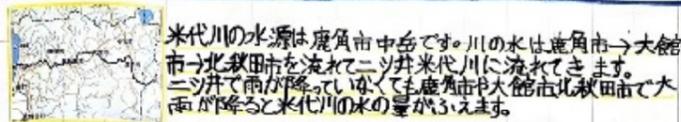
今年の夏は雨の日がとても多く米代川の水があふれるのではないかと心配する雨量でした。テレビも会う人も雨の話題が多く、過去にも同じように雨量の多い年お洪水になった年があることを知り調べてみたいと思いました。

調べる内容 調べ方

- ①水害はなぜおこる → 新聞 本 テレビ
- ②二ツ井の洪水ひ害 → インターネット
- ③水害にそなえる → 大人に話を聞く

①水害はなぜおこる？

日本は、年間降水量が世界平均の1.6倍。世界の降水量が1065mmなのに対して、日本は1668mmにも達します。降水量の多い国のランキングは、1位インドネシア、2位フィリピン、3位ニュージーランドに続いて4位が日本となります。日本は、はっきりとした四季があり特ちょう的な気候で台風や梅雨があるため、一気にまとまって雨が降ることによって水害が起こりやすくなります。



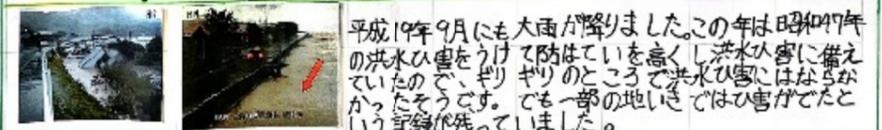
米代川の水源地は鹿角市中岳です。川の水は鹿角市→大館市→北秋田市を流れて二ツ井米代川に流れてきます。二ツ井で雨が降ると、二ツ井米代川に流れて大館市北秋田市で大雨が降ると米代川の水の量がふえます。

②二ツ井の洪水ひ害

二ツ井地いきでは、昭和47年7月、昭和55年4月、平成10年6月、平成19年9月に洪水ひ害に合いました。この中でも昭和47年7月洪水ひ害は大きなものでした。



昭和47年7月洪水ひ害にあいました。この時は住民がボートに乗り二ツ井中学校に避難したり車が水につかるなどはいは人いて洪水ひ害にあったそうです。私の家でも水害に合いました。当時の水害のあとが今でも確認できます。お寺のほん堂の柱が所には分りやすく水害のあとが残っていました。床から50cmの所で水



平成19年9月にも大雨が降りました。この年は昭和47年の洪水ひ害をうけて防はていを高くし洪水ひ害に備えていたの、ギリギリのところまで洪水ひ害にはならなかったそうです。でも一部の地いきではひ害がでたという記録が残っていました。

令和4年8月

大雨で三種川氾濫

新聞にも大雨の記事がたくさんありました。田代地いきでも記事のようにひ害がでたようです。

夏休み自由研究より 5年1組 鈴木琳さん「雨と水害」

③水害にそなえる

水害にそなえるやり方を調べたら色々あることがわかりました。まずは、国や市で水害になりやすい場所を工事して、水があふれないようにしたり堤防を作り水があふれてこないようにするなどの方法。私たちができることは、まず、テレビやラジオ、ケイタイの正しい情報を知ること、情報に合わせひなんする準備をしておくこと。水があふれた川には近づかないことが備えになる。

ひなんする時の服そう

- ・ぼうしやヘルメットを善用
 - ・レインウェア(防水かき)
 - ・びくろ
 - ・リュックサック(両手をあけるため)
 - ・ライフジャケット(あれば安心)
 - ・長ズボン
 - ・スニーカー(長靴)
- ※長つは水が入ると歩きづらいためおすめしない。



④感想

洪水という言葉は聞いたことはあったけど見たことがなかったのになんとなく洪水になったらこわいなあと思っている位でした。今年の夏に、毎日雨が続きどんどん川の水の量があふえ、今まで見たことがないほどの水の量になって、本当に大雨が降り続けると川の水があふれた洪水ひ害につながっていくことがわかりました。昭和47年の水害を調べてみたら地面から190cmも水があふれ子供だけではなく大人もおぼれてしまう位の水量だったかと思うと本当にこわいと思います。雨はちょうどいい量で降ってほしいと思います。

2 大雨がふったら

大雨で川の水があふれ、土砂災害(がけくずれ・地すべり・土石流)がおこりやすくなります。もしも大雨がふったらどのように行動すればよいのか、考えてみましょう。

<h3>川のそう水</h3> <p>水辺には近づかない。つり・水あそび・キャンプなどすぐにやめて、水辺からはなれる。</p>	<h3>川のはんらん</h3> <p>ひなんするときの持ち物を用意し、防災無線をよく聞いて、急いでひなんする。</p>
<h3>土砂災害(がけくずれ・地すべり・土石流)</h3> <p>家族やちいさな人と危険なところをたしかめておき、急いでひなんする。</p>	
<p>このようなときはすぐにひなん!</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山から「ゴー」と音が聞こえる。 ・川の水がにごったり、木がまじったりする。 ・雨がふっているのに、川の水があふれる。 ・小石がばらばら落ちる。 ・しゃめんから水が吹き出す。 ・地面にひびわれができる。 	

絵: 二ツ井中学校美術部

- ### 雷がなっているときは
- 雷が聞こえたら、すぐにひなんしよう。
 - 外にいる人は、建物の中や車の中など、安全なところにひなんしよう。近くにひなんするところがないときは、しせいを低くしよう。
 - 雨やどりで木の下に入るのは、たいへん危険です。雷が落ちることがあります。木や電柱から4m以上はなれよう。

能代市防災リーフレット(能代市教育委員会)より